

斃死魚の魚体からは寄生性の原虫を確認することができた。

A・C・D区は原虫の寄生により斃死魚がでているのに対し、B区は感染症状もみられず薬浴による予防効果が確かめられた。薬剤を使用しないで予防できればそのほうが望ましいわけであるが、この魚病は早期治療を行えば治療効果も確かめられたため、薬づけによる予防法でなしに飼育管理を徹底し早期発見に努めるのが肝要ではないかと思われる。

## V 要 約

1. 天然親魚を採捕養成したが未成熟魚が多数であったため、自然産卵は認められなかった。
2. 5月9日から6月11日にかけてホルモン剤投与による人工採卵を試みた。ゴナトロピンを6～7日間隔で6回注射を行なった結果、産卵が7回認められ、総採卵量は156,000粒であった。しかしほとんどが未受精卵であった。
3. ハマフェエキの卵発生と仔稚魚の形態変化について図示した。卵発生で特徴的なのは受精して16時間後、油球が球型からうり型に変化することである。
4. ふ化直後から60日目までの仔稚魚の形態変化についての概略を述べた。
5. 鹹水性白点病類症の発生は水温が20～22℃に多発傾向にあったが、昭和54年度は水温の高低を問わず18～30℃の広範囲内で発生した。
6. 鹹水性白点病類症の寄生性原虫の大きさは長径375～400ミクロン、短径が225～250ミクロン、細胞内の核は明瞭でなく卵形で微細な繊毛でおおわれる。50～70ミクロン程度の大きさが多数を占める。寄生部位は飼育水に接する部位全部に、感染魚は鰓粘液を多量に分泌して呼吸困難となって斃死する。
7. 鹹水性白点病類症予防試験を行なった結果、硫酸銅1ppm+マゾテン0.25ppmの24時間薬浴を10日間隔に実施した試験区で91日間感染症状は認められず予防効果が明らかであった。

## VI 残された問題点

(昭和53年度からの継続)

1. ふ化後5～8日目における第一減耗期の歩留り向上の検討
2. ふ化後30日目前後における仔魚の沈下現象の原因究明
3. 親魚養成技術の確立

## VII 文 献

1. 沖縄県農林水産部 1978 沖縄の水産業, 統計資料.
2. 沖縄県水産試験場 1979 昭和53年度指定研究, ハマフェエキ種苗生産技術研究報告書 1-20.
3. \_\_\_\_\_ 1975 昭和47～49年度総合版栽培漁業漁場資源生態調査報告3-29.

4. 日比谷 京 1973 ホルモンの有効利用による魚類の成熟産卵の人工統御に関する研究, 昭和47年度農林水産試験研究費補助金による研究報告書, 1-45.
5. 鳥取県水産試験場 1977 昭和51年度指定研究種苗生産報告書(ヒラメ・カレイ類).
6. 赤崎正人・高松史郎・中島東夫・川原大・柳明男・1975 ハマフエフキ *Lethrinus choerorhynchus* の卵発生について, 昭和50年度秋季日本水産学会講演要旨集.
7. 鈴木克美・日置勝三 1978 水槽内で観察されたメイチダイの産卵習性と卵および仔魚, 魚類学雑誌, 24巻4号, 271-277.
8. 古賀文洋 1973 マダイの卵発生について, 福岡水試研究業務報告, 217-224.
9. 福原 修 1970 マダイの卵発生と初期における形態の変異についての観察, 水産増殖 17(2).
10. 水戸 敏 1966 日本海洋プランクトン図鑑(第7巻), 魚卵・稚魚, pp. 74 蒼洋社, 東京.
11. 四竈安正 1937 鹹水性白点病に就いて, 水産学会報告, 第7巻第3号 149-160.
12. ——— 1960 日本産魚類の疾病と寄生虫の生物学研究, 鹹水性白点病とその類症について, 総合海用科学, 第2号 189-200.
13. ——— 1961 ———— 海水魚に見出された *Ichthyophthirius* の1新種について, Reprinted from Science Report of The Yokosuka City Museum No. 6 66-70.
14. 堤 俊夫 1976 水族館における魚病処置, 鹹水性白点病について動薬研究, No. 5 18-20.
15. 堤 俊夫 1977 水族館における魚病処置, 淡水性白点病について, 動薬研究, No. 10, 27-29.
16. 鹿児島県水産試験場 垂水増殖センター 1977 インダイ稚魚に見られる白点病の予防対策, 垂水増殖センター試験研究報告, 第3号, 34-37.
17. 片岡照男 1970 魚の病気と治療法, 190-193, 緑書房編.